

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和2年度】

2021年 4月 30日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0043

所在地 東京都世田谷区松原3-38-16-107

評価機関名 株式会社にはほんの福祉ネット

認証評価機関番号

機構 06 - 168

電話番号 042-444-2757

代表者氏名 三谷宏文

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	永峯治寿	経営	H0802010
	②	佐藤理恵	福祉	H1201056
	③	鈴木龍	福祉	H1901052
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	マグハウス江古田			
事業所連絡先	〒	176-0012		
	所在地	東京都練馬区豊玉北1丁目6番2号		
	TEL	03-6914-6160		
事業所代表者氏名	町田由加里			
契約日	2020年 11月 1日			
利用者調査票配付日(実施日)	2021年 1月 21日			
利用者調査結果報告日	2021年 3月 1日			
自己評価の調査票配付日	2021年 1月 21日			
自己評価結果報告日	2021年 3月 1日			
訪問調査日	2021年 3月 23日			
評価合議日	2021年 3月 23日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	自己評価集計結果や取り組みの裏付けとなる資料などを分析し、特色や課題の抽出を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。  
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2021年 3月 31日

事業者代表者氏名 久保田桂子

印

1	<b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b> 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） <ul style="list-style-type: none"><li>・企業理念：保護者満足（CS）</li><li>・保育ビジョン：子どもたちが将来社会の一員として自立し、見識ある国際人・日本人として活躍できるよう生きる力を育む。</li><li>・保育コンセプト：マグキッズはいつも目がキラキラ輝いているね</li><li>・取組む課題：子ども主体保育の実践</li></ul>
2	<b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b> <b>(1)職員に求めている人材像や役割</b> 求める社員像は、mag (mature、active、global)と設立時から変わらない。子どもは周囲の大人（保育者、保護者）を見習うべき理想の大人としてとらえている。私たちは一人の人間として子どもと向き合い、一方的に教えたり指示管理する立場ではない。なぜなら、子どもは自分を伸ばす力を持っていて必要な活動は自分で行う意志を持っている。だから子どもを信じ、自由な選択を見守り、必要な時だけ子どもと関わる、すなわち「子ども主体保育」を実践して欲しい。 <b>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</b> 上記(1)の下に子どもの言動を理解し、育ちに応じた環境設定をする。そして、子どもが興味を持って挑戦してきたことを共に喜び子どもの自信につなげていく。そして、子育ては保護者と共に行い、これらを遂行することで保育者の仕事の満足や楽しさにつながることを味わってほしい。

調査対象	全児童数38名、複数児利用世帯は最低年齢児1人を対象として実施世帯数を絞り、37世帯を対象に実施した。
調査方法	アンケート調査票の配付は保育園を通じて保護者へ手渡し、回収は回収箱への投函、および、評価機関への郵送を併用して行った。
利用者総数	38
利用者家族総数(世帯)	37
共通評価項目による調査対象者数	37
共通評価項目による調査の有効回答者数	34
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	91.9

**利用者調査全体のコメント**

<p>&lt;総合的な満足度&gt;                  「満足」が79%、「まあまあ満足」が18%、合わせて97%という満足度が示された。                  &lt;調査結果の講評について&gt;                  ・質問における各回答の割合については、無回答は除いた。                  ・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてのみ、記述した。</p>
---

**利用者調査結果**

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	33	1	0	0
回答者の97%が「はい」と回答した。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	33	1	0	0
回答者の97%が「はい」と回答した。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	32	2	0	0
回答者の94%が「はい」と回答した。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	31	3	0	0
回答者の91%が「はい」と回答した。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	27	0	1	6
回答者の96%が「はい」と回答した。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	30	3	1	0
回答者の88%が「はい」と回答した。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	20	11	0	3
回答者の65%が「はい」と回答した。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	31	2	1	0
回答者の91%が「はい」と回答した。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	31	3	0	0
回答者の91%が「はい」と回答した。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	30	2	1	1
回答者の91%が「はい」と回答した。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	30	4	0	0
回答者の88%が「はい」と回答した。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	24	6	1	3
回答者の78%が「はい」と回答した。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	33	1	0	0
回答者の97%が「はい」と回答した。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	28	2	0	4
回答者の93%が「はい」と回答した。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	33	1	0	0
回答者の97%が「はい」と回答した。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	27	2	0	5
回答者の93%が「はい」と回答した。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	15	9	4	6
回答者の54%が「はい」と回答した。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <input type="radio"/> 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <input type="radio"/> 非該当
	カテゴリ1の講評	
	法人の理念(ヴィジョン)や園の方針を明確化している 法人として目指すこと(①子どもたちが、将来、自立した見識のある社会人・国際人として行動できるよう生きる力を育む、②安心・安全・快適な保育環境の下、質の高いサービスを提供する)を明確化している。それを踏まえて、園として大切にしたいこと(①規則正しい生活習慣、②自信や満足感、③コミュニケーション力、④「食べることを生きること」、⑤言葉や外見などの違いの理解、⑥保護者とともに進める子育て)を明確化している。	
	追求している価値の発信・浸透を図っている 理念に対する共通理解を図るために、業務マニュアルを作成している。ヴィジョン、子どもの成長(成長・発達、危機管理、食事)、日常業務(一日の流れ、子どもや保護者への対応、報告・連絡・相談)、個人情報保護などについて冊子としてまとめ、各自に配布し、必要に応じて振り返ることが出来るようにしている。保護者に対しては、ホームページやパンフレットのほか、毎月のたよりなどを通じて、理念に基づく取り組みを発信している。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>広くニーズを把握し、課題を整理している</p> <p>日々のコミュニケーションやアンケートなどを通して、保護者の意向を確認している。現場ではミーティングや振り返り、個別の面談などを通して、職員の意識を把握している。そのほか、行政との情報交換、区内の事業者連絡会や法人の施設長会議などを通して、地域のニーズや業界の動向を把握している。こうした取り組みを踏まえて今後の運営上の課題を整理している。</p> <p>計画に基づく運営を行っている</p> <p>理念や方針を踏まえた計画を策定し、それに基づく園運営を行っている。これまでの取り組みをもとに、職員の意見を活かし、また、同一法人が運営する他園と合同で実施する施設長・副施設長会での事例の共有・検討などを踏まえながら、運営を進めている。必要に応じて企画書を作成し、目的に基づく実施を図っている。</p>		

3 カテゴリー3		
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当



<b>評価項目2</b> 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		<b>評点(〇〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<b>カテゴリ3の講評</b>		
<p>「人」として尊重する対応の重要性や具体的なあり方について周知している</p> <p>ビジョン、子どもの成長(成長・発達、危機管理、食事)、日常業務(一日の流れ、子どもや保護者への対応、報告・連絡・相談)、個人情報保護などについて冊子としてまとめ(業務マニュアル)、全職員に配布している。大人、子どもを問わず、「人」として尊重する対応の重要性や具体的なあり方についても含むこの業務マニュアルを活用して、雇用形態を問わず職員全体での共通認識に基づく業務の遂行を図っている。</p> <p>園運営に顧客満足の視点を取り入れ、把握した意向に対応している</p> <p>相談や苦情の受付責任者、苦情解決第三者委員などの担当を配置している。また、当園の所在する練馬区の担当課も、園外の相談窓口として位置づけている。こうした苦情解決の仕組みについては、重要事項説明書において連絡先を含め明示している。このほか、法人として、園運営に顧客満足の視点を取り入れ、利用者(保護者)の意向を的確につかみ、迅速に対応していく方針を実践している。</p>		
<b>カテゴリ4</b>		
<b>4</b>	<b>リスクマネジメント</b>	
<b>サブカテゴリ1(4-1)</b>		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		<b>サブカテゴリ毎の標準項目実施状況</b> <b>4/5</b>
<b>評価項目1</b> 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		<b>評点(〇〇〇〇●)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ4の講評		
<p>安全な保育環境の維持に努めている</p> <p>事故や事故に至らない事例については、状況の把握、原因の分析、対応策の検討などを行っている。また、安全な環境の維持に向けて、職員各自の振り返りを行っている(安全管理スタッフヒアリングシート)。①現段階での安全管理に対する自分の評価、②安全管理に対してどのような点に注意し、実行しているか、③安全管理に対してどのような点が不得意か、どこに原因があると思うか、④今後どのような対策・対応をとろうとしているのか、こうした点に基づく振り返りを行うことで、各自の意識の向上と安全な保育環境の維持につなげている。</p> <p>情報の保護と利用のバランスを図り、守秘義務を徹底している</p> <p>業務を進めるにあたり収集した個人情報は、会計関連書類や職員のプライバシーに関するものなどは、法人事務局にて管理している。保育現場で扱う情報は、機密性の高いものについては施錠管理している。また、就業規則や業務マニュアルなどにより、職員が遵守すべき守秘義務を明確化している。保育に関する記録の保管期限を利用終了後5年間と定め、保護者にも説明の上、同意を得ている。また、保護者からの情報開示への対応の方針・手順も定めている。</p>		
カテゴリ5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当

<b>評価項目3</b> 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		<b>評点(0000)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
<b>評価項目4</b> 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		<b>評点(0000)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		<b>サブカテゴリ毎の標準項目実施状況</b> <b>3/3</b>
<b>評価項目1</b> 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		<b>評点(000)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
<b>カテゴリ-5の講評</b>		
<p> <b>明確な人材像に基づく育成、設定した目標に基づく評価を行っている</b>            法人名(MAG)の由来であるMature(大人の女性として自立し、責任をもって)、Active(考えるだけでなく行動する)、Global(目先にとらわれずに常にグローバルな視点で考える)、また、保育士としてだけでなく、一人の見識ある大人として行動する(スペシャリストでありゼネラリストであること)人材の育成を目指している。そこで、職員各自が設けた個人目標をもとに自己研鑽を促し、面談を通して目標に対する評価を行い、力を伸ばしていけるよう援助している。         </p> <p> <b>各自の成長を支援している</b>            職員一人ひとりの個人目標をもとにした各自の成長を支援している。外部研修も活用し、様々なテーマでの学びを、会議におけるプレゼンテーションという形で全体で共有している。意欲を高める面では、代表者から助言や感謝の気持ちを伝えることもある。個別の面談では、向上に取り組む姿を認め、合わせて課題についても確認し、勤務における希望や将来の展望などの意向を把握している。また、有給休暇や代休の取得、時間内勤務の厳守など、良き就業環境を整えている。         </p>		

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

「子ども自身が伸びていこうとする環境を整え、育ちを援助すること」を職員の役割として位置づけ、①「考える力の強化」、②「ミーティングの充実」、③「全施設長による保育チェックの実施」、④「保護者の保育参加」などを意識して保育に取り組んできた。ここでは①、②について述べる。

①「なぜ」「何のために」「どのように」行うのかを意識して様々な取り組みにあたることで、根拠に基づく保育実践に一定の進捗が見られた。また、②ミーティングを「連絡」の場以上に「協議」「検討」の場として活用することで、積極的に発言しようとする姿勢、職員の参画意識が芽生えてきた。今後もこれらの取り組みを進めていく方針である。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

ねらいや目的、根拠を意識して実践を進めることは、特定の手法に固執しない自由な発想や、物事を「考えて進める」ことにつながる。また、ミーティングの場は、より良い保育を実践していくための検証の場であると同時に、その進め方によっては職員の成長を促す場ともなりうる。日々の業務を通して職員一人ひとりの意識の向上や成長を図っていく実践を積み重ねて行く事業所の姿がある。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

「子ども自身が伸びていこうとする環境を整え、育ちを援助すること」を職員の役割として位置づけ、①「考える力の強化」(なぜ、何のために、どのように)、②「ミーティングの充実」、③「全施設長による保育チェックの実施」、④「保護者の保育参加」などを意識して保育に取り組んできた。ここでは③、④について述べる。

③第三者の目を活用して検証を行うことで、各クラスにおける日々の保育を振り返ることができ、クラス運営上の成長ぶりと課題の両面を把握することが出来た。また、④園生活における子どもの様子や他の子どもとかわる姿を実際に見ることで、子どもの成長ぶりを目の当たりにし、また、園の保育に対する理解と信頼を深めることにつながった。今後もこれらの取り組みを進めていく方針である。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行ってなかった(目標設定を行ってなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

他者の目を活用することは、日々の振り返りを行う上で様々なメリットがある。普段気づきにくいこと、気づいてはいるが課題として上がりにくいことなどを明確化・顕在化することにつながる。また保育の様子を保護者に公開することは、活字や写真以上に説得力を持ちうる。面談などと組み合わせることで、子育ての進め方に関する話も深まり、また伝わりやすくなる。法人内での連携や保護者の協力を活かしてより良い保育を追究していく実践がある。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>読み手の立場に立った情報提供を行っている</p> <p>パンフレットやホームページなどを通して情報を発信している。パンフレットでは、保育方針や園の概要、1日のプログラム、年間行事、アクセス方法を掲載している。ホームページでは、献立表、行事なども掲載している。英語での情報提供がより相応しいケースを想定して、日本語と英語の両言語での説明文を掲載している。</p> <p>見学会を兼ねた説明会を実施している</p> <p>当園の保育に関心のある子育て世帯を対象に、見学会を兼ねた説明会を実施している。認可保育所という制度の性質上、見学や入園希望が直接的に入園に結びつくわけではない。それでも、今後利用する教育・保育施設について理解してもらうために、園の仕組みや教育・保育全般について説明を行っている。結果としては、実際の入園者が説明会に参加していた場合が多く、園に対する理解を深めることがスムーズな利用につながっている。</p>		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>個別の説明と情報の収集を行っている</p> <p>入園が決定した段階で、利用上の重要事項や基本的なルールについて説明を行っている。そして、十分な説明に基づく理解と納得の上で同意を得て、利用をスタートしている。新型コロナウイルス感染症の拡大という社会状況を踏まえ、個別に(一人ひとりに対し)説明を行っている。入園前には面接を行い、一人ひとりの生活リズムや家庭での様子など、園生活に必要な個別の情報や保護者の意向を確認している。そのほか、入園前の生活状況・健康の記録・食物アレルギー・緊急連絡先などについても情報の提供を受けている。</p> <p>新しい環境になじめるよう丁寧に関わっている</p> <p>入園直後は、「新しい環境に慣れる」「個々の様子に合わせてかかわっていく」といった基本的かつ欠かせない点をわらいとして設定し、保育者による受容や保育者との触れ合いの中で安心して過ごせるよう配慮している。あやしたり、話しかけたり、スキンシップを図り、安心できる大人とのかかわりの中で心地よく過ごせるようにしている。また、保護者とは、園での姿や家庭での様子を互いに話せる環境作りを進め、不安を軽減し、徐々に信頼関係を築いていけるよう、連携を密にとっている。</p>			

サブカテゴリー3		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	12/12
3 個別状況の記録と計画策定			
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		<b>評点(〇〇〇)</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当	
<b>評価項目2</b> 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		<b>評点(〇〇〇〇〇)</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		<b>評点(〇〇)</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当	
<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		<b>評点(〇〇)</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当	
<b>サブカテゴリー3の講評</b>			
<b>個別の状況を確認し、また全体的および個別の指導計画を作成している</b> 子ども一人ひとりの在籍記録、成長過程や保育経過記録などをまとめた基礎的な書式(児童票)は、練馬区のを参考にして整備している。これを利用して、子ども一人ひとりの発達の状況や家庭に関する情報を確認し記録している。また、保育所保育指針などに基づいて、保育の全体的な計画を編成し、それに則って年間その他の諸指導計画を作成している。計画は、発達の過程に応じた子どもの姿を踏まえてねらいを設定し、生命の保持・情緒の安定、健康・人間関係・環境・言葉・表現などの各領域を考慮して経験する内容を決定している。			
<b>計画に基づく保育の実施過程や子どもの姿の推移を共有している</b> 年間指導計画をもとに、月・週・日ごとの計画を作成している。2歳児までは個人別に月間指導計画を作成し、個々の育ちをより詳細に見ている。計画は、3か月に1度(4期に分けて)振り返りを行い、子どもの成長・発達に沿った保育内容となるように見直しを行っている。また、日々の活動の中で一人ひとりの子どもの様子は、各クラスの保育日誌や保育経過記録に記録している。職員間の情報共有の仕組みとしては、ミーティングやブリーフィングの場のほか、スタッフ連絡帳の活用などがある。ノートの内容を踏まえた上での業務の遂行を徹底している。			



サブカテゴリ-5	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 <span style="float: right;">サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5</span>
<b>評価項目1</b> 子どものプライバシー保護を徹底している <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<b>評価項目2</b> サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
サブカテゴリ-5の講評	
<b>情報の利用の範囲と目的を明確化している</b> 収集・管理している個人情報の利用目的について契約時の関係書類に明示し、保護者に説明し同意を得ている。これにより、収集した個人情報を限定された目的の範囲内で用いること、外部とやり取りをする場合もその範囲を特性し、同意を得た上で行うことなどを明確化している。	
<b>望ましい言動のあり方を追求している</b> 子どもを中心にすえた保育実践を追求している。職員による子どもとのかかわりを見ていく中で改善が望ましいと思われた時は、職員の成長には時間を要するとの前提に立ち、本人の気づきを待ち、時に助言を行い、経験を積んでいく中で自分で考えて理解し納得していくプロセスを重視している。また、大人、子どもを問わず、「人」として尊重する対応の重要性や具体的なあり方について示した業務マニュアルを活用して、各自の気づきを促している。	

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		<b>評点(〇〇〇)</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当	
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		<b>評点(〇〇)</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
<b>サブカテゴリ-6の講評</b>			
<b>共通の基盤としての業務マニュアルを整備している</b> 運営・保育の各場面における対応上の留意事項や手順を業務マニュアルとして明確化している。マニュアルでは、ビジョン、子どもの成長(成長・発達、危機管理、食事)、日常業務(一日の流れ、子どもや保護者への対応、報告・連絡・相談)、個人情報保護などについて網羅的にまとめ、全職員に配布している。新入職員に対しては、挨拶や言葉遣いなどのコミュニケーションの基本事項の部分から伝えている。			
<b>学びの成果を全体で共有している</b> 職員一人ひとりが設定した個人目標をもとに、各自の学びを支援している。外部研修では、様々なテーマでの学びを、会議におけるプレゼンテーションという形で全体で共有している。こうした取り組みを通して、業務水準の維持を図っている。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ4	
		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	35/35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている			
		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>成長・発達を踏まえ、力を育んでいけるような環境を設定している①</p> <p>0-1歳児が過ごす分園は2部屋、2-5歳児が過ごす本園は4部屋の空間を利用してそれぞれの育ちを援助している。分園では安全や衛生に特に配慮し、パーテーションを活用して遊びと食事の場所を分け、メリハリとともに遊びこみ集中する子どもの時間を保障している。本園では、2歳児は単独の部屋で、発達・成長にとって必要な活動(遊び)を保障している。前半は大人が玩具や教材などを提供し、後半は自由に選び、出し入れできるように設定している。</p> <p>成長・発達を踏まえ、力を育んでいけるような環境を設定している②</p> <p>本園で過ごす3-5歳児は年齢の枠を超えて過ごす時間と空間を設定している。パーテーションを活用することで、ワンフロアを空間に分けて、それぞれの場を保障したり、交流を図ったり、子ども同士の自然なかかわりを環境面からサポートしている。木製玩具のほか教具なども導入し、棚に設定されたものを選び取り、手先を使って各自で集中して取り組む姿がある。手作りのものを中心に、全ての玩具や教具は興味や関心に応じて自由に出し入れが出来るようにしている。</p>			
2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている			
		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当
評価項目2の講評			
<p>送迎時における状況の確認と報告に留意している</p> <p>登園時には一人ひとりに声をかけ、健康状態や家庭での様子などについて、聞き取り・観察などを通して確認している。そして、それらを踏まえた上で日中の保育を行っている。降園時には日中の子どもの一日の様子を担任から、または引き継いだ職員から伝えている。保護者とコミュニケーションを図りつつ、一人ひとりへの関心、観察、それらに基づく気づきを保育に活かしている。</p> <p>年齢・発達に応じて「出来る」体験の広がりを援助している</p> <p>生活習慣の確立という点では、0-1歳児の段階では「やりたい」という思いを尊重し、お手伝いという形がかかわることが出来る場面を設定し、「出来た」と思える体験の積み重ねを大切にしている。2歳児以降はより「自立」を意識し、「手伝って」と自分で伝えられることを含めて一人で出来るようになる体験を積み重ねている。</p> <p>積み重ねを通して基本的な生活習慣の確立を目指している</p> <p>食事については、実物の食べ物を見せる、食べこぼしの処理方法を伝える、挨拶や食具の持ち方などのマナーが身に付くよう、必要に応じて声をかけているなどしている。また、排泄の方法や衣服の前後の認識・着脱など、年齢や個人の発達に応じて少しずつできるようになるよう援助している。そのほか、手洗いやうがいの実施、お手伝いを通した役割の発揮とそれに対する感謝、食事の前後での挨拶など、生活の各場面を通して必要な力を身につけていけるようかかわりを積み重ねている。</p>			

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3の講評		
<p>身体を思い切り使った遊びや活動を保障している</p> <p>園庭に代わるものとして、近隣の公園を有効に活用している。かけっこ、ドッジボール、サッカーなどにより、友だちと関わりながら思い切り身体を動かしている。あるいは、生き物や植物などの自然に触れ、五感を働かせて季節を感じたり、好奇心を働かせたりしている。新型コロナウイルス感染症の影響により、現在は遊具は使っていない。そのぶん、室内(園内)では鉄棒やサーキットなどに取り組んでいる。</p> <p>言葉の世界の広がりを援助している</p> <p>能力の発達に最適な、際立った感受性を示す時期(敏感期)を捉え、個々の思いに寄り添い、受けとめ、共に楽しみ、語彙や表現を広げられるよう援助している。友だちや大人の話しに耳を傾け、当番活動に一貫として出席確認の際には名前を呼び、質問に答え、活動(お仕事)の中にひらがななどを取り入れ、またお手紙ごっことして友達に手紙を書くこともある。また、気持ちを伝えようとする意欲を尊重し、大人が先取りするのではなく、子どもの行動を待ち、難しい場合にのみ仲立ちをしている。</p>		
4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもを主体とした行事を工夫している</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で、区の要請もあり、行事の実施は抑制してきた。そのぶん、例えばハロウィンの際の近隣の練り歩きには、保護者参加を見送り、本園・分園が相互に訪問する形で実施した。クリスマス会も、保護者による参観とビュッフェの提供というこれまでの方法を変更し、子どものみで行い、その様子を捉えた動画をウェブサイトで発信した。夏祭りも休止した代わりに、秋祭りの中でお店屋さんごっこやゲームなどを行った(本園)。本園・分園合同での行事は控え、ピクニックなどに限定してともに楽しむ機会を設けている。</p> <p>予定や当日の様子を保護者に発信している</p> <p>年度初めに年間行事予定表を配布し、参加への見通しを立てやすいようにしている。保護者参加の行事は、就労状況を踏まえて参加しやすい日程で実施している。毎月発行する「マンスリーマガハウス」(園だより)には、行事予定のほか、行事当日の様子を写真とともに伝え、参加できない保護者にも知らせている。そのほか、動画を活用し、より活き活きとした姿を保護者と共有している。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>落ち着いて過ごすことが出来る環境上の配慮を行っている</p> <p>長時間園に滞在する子どもの心身の状況を踏まえ、活動と休息のバランスに配慮している。少人数に分かれ、思い思いの活動をしたり、ゆったりと過ごしたりできる空間を作っている。遊びの選択も子どもの自由に委ね、玩具や素材などは見えることに準備している。</p>		
6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>安全で美味しい食事を中心に、家庭の食卓に上ることの少ないメニューも取り入れている</p> <p>認可化以前からの蓄積をベースに、季節の安全な食材を用いた豊富なメニュー構成で、見た目の楽しさやおいしさにも重点を置き、和食を中心に提供している。また、カレーであればビーンズカレー、パスタであれば季節の野菜を用いたもの、そのほか魚、ラザニア、材料を小さい角切りにしたサラダ(マセドアンサラダ)など、家庭の食卓に上ることの少ないメニューを積極的に取り入れている。子どもの食の楽しみや広がりをもたらしている。</p> <p>コロナ禍という状況下でも、可能な範囲で食への関心を育んでいる</p> <p>「食べることは生きること」をベースに食に対する関心を育む活動に力を入れている。コロナ禍にあって断念せざるを得なかった活動(例: 収穫など)もあるものの、クッキー作り、野菜をあてるクイズ、パンケーキをフォークナイフで切る、パンにジャムを塗る、みかんを絞る、プランターで野菜を栽培するなど、可能な範囲で取り組んでいる。食をきっかけに幅広い分野での興味の広がりを持たせるべく、今後も継続して積極的に取り組んでいく方針である。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p><b>健康や安全に対する関心を育んでいる</b> 成長・発達に応じて、徐々に健康や安全に対する関心を持つことが出来るようかかわっている。戸外から戻ってきた際や食事の前には丁寧に手洗いをし、病気の予防につながることを伝えている。</p> <p><b>乳幼児突然死症候群や感染症などの情報を提供している</b> 0歳児クラスでは、睡眠時には定期的に呼吸チェックを行い、呼吸や顔色、寝方などを確認し対応している。また、日々の清掃を始め、手洗いやうがいの実施、アルコール消毒など、衛生管理に努めている。保護者に対しては、園だよりの配布やポスターの掲示により、子どもの病気や健康に関する情報について発信している。区発信の感染症情報についてもその都度掲示し、園内で感染者が発生した場合は、発生状況を直ちに掲示して知らせしている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p><b>働く保護者の安心を追求している</b> ビジョンの中に「ワーキングマザーを応援し、安心して預けられる安全快適な保育環境を提供」することを掲げている。従って、働く保護者の立場を理解し、安心して子どもを預けることが出来ることを当園の役割であり責務であると捉え、保育の質の向上はもとより、WEBカメラをはじめ、保育内容の発信にも積極的に取り組んでいる。</p> <p><b>保護者同士の交流の機会を提供している</b> 園と保護者との間、また保護者間での交流の機会である保護者会は、新型コロナウイルス感染症の影響で延期を重ね、開催時間をずらし、全体会を行わない形で実施した。普段のお迎えの際の時間は、保護者同士が情報交換を行える機会となっている。クラス別では保護者が自主的にコミュニケーションツール(モバイルメッセージングアプリケーション)を活用して交流・情報交換を行っている。</p> <p><b>保育参加や保育ICTシステムなどを利用し、子育ての共有化を図っている</b> 秋から冬にかけての時期に、保護者の保育参加の期間を設定している。希望日に保育に参加し、子どもの様子に直接触れることが出来る。食事の際は、ゆっくりとお話したり、着替えの時間を利用して疑問や不安について話を聞き、また助言をしたりしている。現在は新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、部屋に入ることは控えている。「何かあればいつでも相談に応じること」を基本方針としており、保育ICTシステムを通じて寄せられる不安や心配事にも面談などで対応している。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目9の講評		
<p>地域とのつながりを発展させていく方針である</p> <p>日常的な散歩で出会う地域の方々との顔の見える関係の構築、様々な社会資源とのつながりを活かした活動などにより、子どもと多様な主体との交流を図っている。コロナ禍という状況下において活動に諸々の制約を伴うものの、これまでの活動を通して確立した園に対する地域の認知を基盤として、今後も地域とより良い関係を作り、子どもの活動の幅を広げ、また相互に協力できる関係につなげていく方針である。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-6-1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
タイトル①	職員全体での共通認識に基づく業務の遂行を図っている	
内容①	日頃の会議のほか、半期ごとに会議の振り返りを行い、法人・園として大切にしたいことに立ち寄り、経営層が示す方針に対する職員各自の理解や実践を図っている。また、ビジョン、子どもの成長(成長・発達、危機管理、食事)、日常業務(一日の流れ、子どもや保護者への対応、報告・連絡・相談)などについて冊子としてまとめ(業務マニュアル)、全職員に配布している。「人」を尊重する対応の重要性や具体的なあり方についても含むこの業務マニュアルを活用して、雇用形態を問わず職員全体での共通認識に基づく業務の遂行を図っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	2-1-1	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している
タイトル②	顧客満足の視点に基づく取り組みが高い評価に結び付いている	
内容②	園運営に顧客満足の視点を取り入れ、利用者(保護者)の意向を的確につかみ、迅速に対応していく方針を実践している。把握した保護者の意向を全体で共有し、必要に応じて現状の見直しにつなげている。また、働く保護者の立場を理解し、安心して子どもを預けることが出来ることを当園の役割であり責務であると捉え、保育の質の向上はもとより、WEBカメラをはじめ、保育内容の発信にも積極的に取り組んでいる。こうした基づく取り組みが、「分かりやすい説明」「親身な対応」「一人の人間としての尊重」といった保護者の評価につながっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-2-1	サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている
タイトル③	個別の意向や状況を確認し、入園前の不安の解消を図っている	
内容③	ホームページでは、園での一日の流れ、一年の見通し、食事、よくある質問などについて、分かりやすく簡潔に案内している。また、入園前の段階で見学会兼説明会を実施し、実際の入園決定の有無を問わず、保育方針や園生活上の留意事項などについて説明している。入園決定後は(特にコロナ禍の状況下では)一人ひとりに対し入園説明を行い、個々の状況を踏まえた説明や個別の意向の収集を行っている。	



No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	成長・発達に応じて力を培い、またかかわりを広げられる環境を整えている
	内容	0-1歳児が過ごす分園は2部屋、2-5歳児が過ごす本園は4部屋の空間を利用してそれぞれの育ちを援助している。パーティーを活用して、静的・動的、あるいはクラスごとの活動を保障し、メリハリにある過ごし方とともに遊びこみ集中し、また友だちと自然にかかわり、異年齢を含め交流を深め、育ち合う関係がある。そのほか、手作りのものを中心に、玩具や教具を自分で取り出せるように設定し、興味や関心に応じて選び取り、手先を使って各自で集中して取り組む姿がある。
2	タイトル	子どもの成長・発達を踏まえ、興味・関心を捉え、それらに応える玩具・教具を制作・提供している
	内容	子どもの成長・発達に合わせて「どのようなことがやりたいのか」を考え、その子どもに向けた玩具・教材などを手作りで制作している。大人が制作した玩具・教材を用いて取り組む姿があり、定着していることがうかがえる。また、子ども自身も大人による制作を楽しみにしており、リクエストすることもある。子どものことを考えて制作すること自体が大人と子どもとのかかわりを生んでいる。
3	タイトル	人材育成を保育の質の向上につなげている
	内容	職員の意識が保育のあり方や子どもの育ちに与える影響の大きさを踏まえ、職員自身が考える力を培っていけるような人材育成を行ってきた。特にミーティングの場を研修の機会として活用し、子ども主体の保育実践、保護者対応、日常の中での失敗例、解決・共有すべき事例などについて検討・共有し、保育の質の向上を図ると同時に、職員個人の成長を促し、組織全体の力の向上につなげてきた。こうした職員の成長が子ども主体の保育として現場での実践にも表れてきている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	使用している帳票・書類を改めて見直し、適切に位置付けていく
	内容	認可化以前からの実績、取り組みの蓄積があるため、認可化移行に伴って整備した書類と、それ以前から使用しているものが併存している。検証の結果として、いずれも今後使用を継続するという結論に至る可能性もあるし、省略や統合が可能なものが出てくる可能性もある。前者の場合は、使用している書類の存在意義を改めて認識することにつながり、後者の場合は省力化につながりうる。改めて各種書類の現状を見直し、適切に位置付けていくことを課題としている。
2	タイトル	引き続き、人材の確保や定着に取り組んでいく
	内容	子どもにとっての大人の存在は、「人的環境」と言う意味で大きな意味を持つ。そのため、人材の定着は安定的な保育環境の維持という点でも重要となる。現在進めている「子ども主体の保育」への共感、志を同じくする職員集団として欠かせない条件となる。また、各自の成長を支援し、頑張り認め、居心地の良い就業環境を維持していくことも、人材の定着には有効である。今後も、広く門戸を開きつつも、当園にとって必要な人材を育て、定着を図っていくことを課題としている。
3	タイトル	子どもの成長・発達を保護者とのようにして共有を図っていくか、考察を深めていく
	内容	子どもの健やかな成長を保障していくためには、保護者の思いを尊重するとともに、教育・保育の専門的な見地からの気づきや考察を活かしていく必要がある。これは、成長・発達に応じた経験と、それによって培われる様々な能力の獲得を保障していくことが、子どもの健やかな成長に不可欠であることによる。専門的な判断や助言は、保護者による受容や理解があって初めて十分に機能する。子どもの育ちを保護者とのように共有していくか、対人援助の専門家として、その良き方法や共有のための関係作りについて、考察を深めていくことを課題としている。